



まちづくり歳時記



吹上地区では、まちづくり協議会や各団体による活動が地域を支えています

1 地域みんなで協力して開催される「いぶきの里くらまつり」/2長寿会による「花いっぱい運動」/3 登下校を見守る安全パトロールは、地区内で統一したベストを着用/4 グリーンツーリズム協議会の講師による「わくわく教室いぶき」の田植え体験/5 交通安全協会吹上支部は体育祭で安全運転をPR/6「わくわく教室いぶき」の稲刈り/7 地区内をランナーがたすきでつなぐ駅伝大会



吹上地区では、このさしも草の保護・育成に取り組んでいるほか、その活用方法について研究を行っています。なかでも、さしも草を麺に練り込んだ「さしも草うどん」は地域の名物となり、市内の様々なイベントで提供されているほか、子どもたちを対象としたうどんづくり教室も行われています。また新たな試みとして、さしも草の美しい緑色を活かした草木染め「さしも草染め」にも取り組んでいます。

「かくとだにえやは伊吹のさしも草・・・」百人一首でも知られる「さしも草」は、現在のヨモギの別名とされ、古くから薬効に優れた植物として、お灸の材料などに利用されてきました。古来のさしも草の名産地「伊吹山」の場所については諸説ありますが、一説には現在の栃木市吹上地区の伊吹山であると言われており、この地に自生する七つ葉のヨモギは、栃木市の天然記念物に指定されています。

古代の名産を現代に
伊吹の「さしも草」
さしも草知らばな
もゆる思ひを

吹上地区まちづくり協議会のロゴマークは、七つ葉の「さしも草」がモチーフ

「シリーズまちづくり実働組織」では、「まちづくり実働組織」を中心とした市内各地域の地域づくりについて、不定期で紹介しています。

今やっていることに満足するのではなく、いつも課題を探しながら、何をやるのがベストなのかと考えています。毎年同じことをやるのではなく、常に変化しながらやっていきたい。柔軟な頭で、細く長く、時々太く、活動していければと思います。

子育て世代など、働いている若い世代の方を巻き込んでいくのが、ひとつの目標でもあります。スケートリンクの事業もそういった側面がありますね。

常に変化しながらやっていきたい

会の設立当初は、地区内の皆さんや各団体が手をさしのべてくれました。ただ、会の活動がある程度固まってくると、逆にこちらからどんどん声をかけていかなければいけない。その一方で、会の役員の皆さんも、最初は各種団体からの出向の方がほとんどでしたが、今では「会の活動に参加したい」と、公募の委員のほうが多いくらいになりました。

吹上地区の魅力は地元の人にも理解してもらう。この吹上地区に住んでいることを誇りに思える、ということ活動を基本としています。地区の魅力を探して、他の地域の人にも知ってもらおうと同時に、地元の人にも理解してもらって、活用する、という楽しんでもらいたいと思っています。さしも草も「保護していただくだけでなく、活用しないともったいない」と、協議会の2年目から研究が始まりました。

若い世代も巻き込んで

柔軟な頭で
細く長く、時々太く

吹上地区まちづくり協議会
会長 酒巻幸夫氏